

介護老人保健施設しおん

症 例 概 要 利用者:男性 80代 要介護3

利用期間:R2年4月～在籍中

既往歴:高血圧性脳内出血、高血圧、高コレステロール血症

経過:令和元年12月に右小脳出血の為、N病院に入院、令和2年2月リハビリ目的で石巻健育会病院へ転院、4月にしおん入所。入所してすぐは、表情が陰しくあまり職員とも話をしなかったが、入浴の時だけ笑顔が多くみられコミュニケーションが取れた(大工の仕事をしていたため「仕事終わりの風呂が好きだった」など)。

誤嚥性肺炎により絶食、ADL低下によりストレッチャー浴となったが、再び個浴へ入浴が出来るようになるには食事も取って頂かなくてはならないとチームで取り組み再び個浴が実現でき、最高の笑みが得られた症例。

内 容

R2年4月にリハビリ目的で入所されたが、入所時は表情がきつく職員の声掛けにもあまり反応がなかった。認知症もあり他利用者さんの部屋へ入ってしまうこともあり、職員がその都度付き添い対応した。注意力散漫・失調症状あり食事時のむせこみが見られ、食事中は職員の見守りで召し上がって頂いていた。

入所生活では、唯一、個浴(一般風呂)に入浴される時にとても良い表情が見られ、「いやー、気持ちいい」といつも笑顔でリラックスされていた。ご本人は寡黙な方ではあるが、入浴中は会話が弾んでおり「入浴好き」な一面が見受けられた。

R2年11月に熱発し誤嚥性肺炎と診断、絶飲食となりベッド上での生活が10日間続いた為、その間にADL低下となる(栄養は点滴にてフォロー)。キーパーソンの息子様は胃瘻は望まず、点滴を併用しながら嚥下訓練を実施し、経口摂取が可能であればチャレンジしたいとの事であった為、早速、訪問歯科診察を依頼。内視鏡検査で誤嚥は認められない事が確認された。

ご本人からも「元気になって再びお風呂に入りたい」との言葉が聞かれるようになり、摂食訓練に取り組んだ。ユニットでは毎食前に嚥下体操、吹き戻しを使った訓練を実施。熱発も収まり直接訓練を最初はNS、STの介助にて開始した(1食/日:ゼリー)。食事開始に合わせ義歯も新たに作成し、栄養課はお試し嚥下食やゼリー食を提供し経口摂取をサポートした。

熱発から2か月後、摂食状態が改善され3食/日となり点滴からも離脱する事が出来た為、入浴もストレッチャー浴から個浴(一般浴)に戻すことを検討。セラピストも入浴動作に特化した訓練を実施し、個浴へ入浴できるようになり「気持ちいい」と最高の笑顔が見られた。

今回の症例は誤嚥性肺炎でADL低下から絶飲食になったが、ご家族の「最後まで口から食べてほしい」という希望とご本人の「お風呂に入りたい」という思いから、多職種が協力し、食事が摂取出来るよう経口摂取の訓練をし希望を叶えることができ、リハビリを頑張ったことにより念願の個浴に入れ喜んで頂いた。さらには「大きな風呂に入りたい」と希望がありコロナが落ち着いたら、今後はスーパー銭湯に入れる事を目標にしていきたい。